

令和3年度 第1学年 「音楽科」シラバス

○ 音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。〔知識及び技能〕
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようになる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い豊かな情操を培う。〔学びに向かう力、人間性等〕

○ 音楽科3つの観点の評価の方法

*次の3観点をそれぞれ3段階(ABC)で表す。

【知識・技能】

曲想と音楽の構造や背景、歌詞の内容との関わりや、声の音色や響き、及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し、それらを表現するための技能を身につけている。

- ・実技テスト
- ・授業中の実技発表等
- ・定期テスト

【思考・判断・表現】

曲想や曲種に応じたより良い表現について考え、試行錯誤しながら表現の仕方を創意工夫することができると。音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

- ・ワークシート
- ・鑑賞プリント
- ・実技テスト
- ・授業中の実技発表等

【主体的に学習に取り組む態度】

音や音楽に興味をもち、意欲的に合唱活動や鑑賞活動に取り組んでいる。

- ・授業の取り組み
- ・実技テスト
- ・鑑賞プリント
- ・期末テスト

など

○ 評定

- ・上記3観点の観点別学習状況の評価を基にして、5段階で表す。

学期/月	学習内容(時数)
前期	
4	明るい歌声でのびのび歌おう(2) 歌声で伝えよう(3)
5	情景と音楽とを関わらせて曲を聴こう(3)
6	日本の歌を歌い継ごう①(2)
7	旋律のまとまりとハーモニーの美しさを感じ取ろう(4)
9	日本の民謡の特徴を感じ取ろう(2)
9	合唱する喜びを味わおう(8)
9	アルトリコーダーの基本的な奏法を身につけよう(6)
10	
10	日本の歌を歌い継ごう②(2)
11	詩と音楽との関わりを感じて曲を聴こう(3)
12	
12	日本の音楽に親しもう(2)
1	箏の基本的な奏法を身につけよう(6)
1	
2	
2	混声合唱を創意工夫して歌おう(4)
3	
後期	

令和3年度 第2学年 「音楽科」シラバス

○ 音楽科の目標

- 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。〔知識及び技能〕
 - (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようになる。〔思考力、判断力、表現力等〕
 - (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い豊かな情操を培う。〔学びに向かう力、人間性等〕

○ 音楽科3つの観点の評価の方法

* 次の3観点をそれぞれ3段階（ABC）で表す。

【知識・技能】

曲想と音楽の構造や背景、歌詞の内容との関わりや、声の音色や響き、及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し、それらを表現するための技能を身につけている。

- ・ 実技テスト
- ・ 授業中の実技発表等
- ・ 定期テスト

【思考・判断・表現】

曲想や曲種に応じたより良い表現について考え、試行錯誤しながら表現の仕方を創意工夫することができる。音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

- ・ ワークシート
- ・ 鑑賞プリント
- ・ 実技テスト
- ・ 授業中の実技発表等

【主体的に学習に取り組む態度】

音や音楽に興味をもち、意欲的に合唱活動や鑑賞活動に取り組んでいる。

- ・ 授業の取り組み
 - ・ 実技テスト
 - ・ 鑑賞プリント
 - ・ 期末テスト
- など

○ 評定

- ・ 上記3観点の観点別学習状況の評価を基にして、5段階で表す。

学期/月	学習内容 (時数)
前期	
4	拍の流れにのって表現を工夫して歌おう (3)
5	オーケストラの名曲を鑑賞しよう (3)
6	アルトリコーダーの基本的な奏法を身につけよう (4)
7	日本の歌の美しさを求めて (2)
9	合唱する喜びを味わおう (10)
10	
11	旋律の重なりを感じ取ろう (3)
12	曲想を感じ取り、パートの役割を理解して歌おう (3)
1	アカペラに親しもう (2)
2	日本の伝統芸能に親しもう (3)
3	混声合唱を創意工夫して歌おう (6)
後期	

令和3年度 第3学年 「音楽科」シラバス

○ 音楽科の目標

- 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。〔知識及び技能〕
 - (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようになる。〔思考力、判断力、表現力等〕
 - (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い豊かな情操を培う。〔学びに向かう力、人間性等〕

○ 音楽科3つの観点の評価の方法

* 次の3観点をそれぞれ3段階(ABC)で表す。

【知識・技能】

曲想と音楽の構造や背景、歌詞の内容との関わりや、声の音色や響き、及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し、それらを表現するための技能を身につけている。

- ・実技テスト
- ・授業中の実技発表等
- ・定期テスト

【思考・判断・表現】

曲想や曲種に応じたより良い表現について考え、試行錯誤しながら表現の仕方を創意工夫することができると。音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

- ・ワークシート
- ・鑑賞プリント
- ・実技テスト
- ・授業中の実技発表等

【主体的に学習に取り組む態度】

音や音楽に興味をもち、意欲的に合唱活動や鑑賞活動に取り組んでいる。

- ・授業の取り組み
- ・実技テスト
- ・鑑賞プリント
- ・期末テスト

など

○ 評定

- ・上記3観点の観点別学習状況の評価を基にして、5段階で表す。

学期/月	題材名(時数)
前期	
4	日本語のもつ美しさを味わいながら歌おう(3)
5	オーケストラの名曲を鑑賞しよう(3)
6	ギターに親しもう(4)
7	合唱する喜びを味わおう(10)
9	
10	
11	
後期	
11	総合芸術のよさや特徴を感じ取るう(3)
12	日本の詩の心を味わおう(3)
1	感動の卒業を歌い上げよう(8)
2	
3	

1 年 生 美 術

- 1 教科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成する。

2 評価の観点

- 「知識・技能」
・自己の表現活動に役立つ表現方法や用具や用材に関する知識、また鑑賞に必要な知識を身に付ける。
「技」
・表現の技能を身に付け、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。
「思考・判断・表現」
・感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなど作品を鑑賞し、心豊かで創造的な表現の構想をする。
「鑑賞」
・様々な作品を鑑賞し、発見を基に自分なりの感じ方を深め、考えを広げる。
「主体的に学習に取り組む態度」
・主体的に表現の創造活動に取り組み、その喜びを味わおうとする。
・主体的に表現の創造活動に親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じとろうとする。

3 第1学年

月	題 材 名	学習のねらい	学習内容と主な評価の規準
4	オリヂ・鑑賞 美術との出会い (アニメーション の背景画)	暮らしの中の美術の役割に関心を高め、これからの美術の学習に見通しを持つ。	○見慣れた作品の作家のが自然を見つめるまなざしに触れることにより、美術へのオリエンテーションとする。 評価の項目： 知 図 鑑賞
5	絵画・彫刻 見つめると見えてく るもの 鉛筆で描く・ 水彩で描く 水彩の基本 色彩の基本	身近なものを見つめ、感じ取った形や色彩、明暗、質感など、を工夫して表現する。	○身近なものの特徴を捉え、主題を生み出す。 ○鉛筆などの特性を生かし工夫して表す。 評価の項目： 知 図 形 陰 陰表
6	鑑賞 絵の中をよく見ると	作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え見方や感じ方を広げる。	○描かれている人や事物、などから絵中の会話を考える。 ○感じたことや考えたことを友達と意見を述べ合う。 評価の項目： 知 図 陰 陰表 陰鑑
7	絵画・彫刻 墨と水の出会い さまざまな技法で 描く	水の量や筆の動かし方などを試しながら主題を生み出し、工夫して表す。	○作品を鑑賞し、墨や筆の動かし方などを生かして表す。 ○感じ取った形や色彩の特徴や美しさなどから主題を生み出し、構想を練る。 評価の項目： 知 図 形 陰 陰表 陰鑑
9	鑑賞 屏風、美のしかけ 「風神雷神図屏風」 「燕子花図」	屏風の表現のよさや美しさ、折ることで生まれる見え方の変化を感じ取るなどとして見方や感じ方を広げる。	○鑑賞し、気付いたこと、感じたこと、考えたことをクイズ形式にまとめる。 ○作者の意図や表現の工夫、各自が感じた思いの違いについて意見を述べ合う。 評価の項目： 知 図 陰 陰鑑
10	絵画・彫刻 刷って出会う楽しさ	版の特性を生かした表現効果を考え材料や用具を工夫し表す。	○版で表す効果や技法による表現の違いなどを感じ取る。 ○版の特徴を考えながら主題を生み出す。 評価の項目： 知 図 形 陰 陰表
11	鑑賞 美のタイムトラベル	原始美術の造形的なよさや美しさ、当時の人々の願いや作者の意図と工夫について考えるなど見方や感じ方を広げる。	○原始美術の表現を鑑賞し、気付いたこと、感じたこと、考えたことなどを話し合う。 ○人間と造形の関わりを理解し、なぜ美術が生まれたのかについてまとめる。 評価の項目： 知 図 陰 陰鑑
12	デザイン・工芸 文字っておもしろい	イメージが伝わるよう、形や色彩、構成を考えて文字をデザインする。	○身近なデザインされた文字を鑑賞し考える。 ○文字を分かりやすくさと形や色彩などを考えてデザインする。 評価の項目： 知 図 形 陰 陰表 陰鑑
	デザイン・工芸 デザイン・工芸		

1	折って、切って、巻いて	目的や条件を基に、紙の加工方法や美しい構成を考え、工夫してデザインする。	○紙を折ったり切ったりする活動から、美しい形を見いだす。 ○紙の特性を生かして空間装飾作品を制作する。 評価の項目： 知 図 図 図 図 図
2	デザイン・工芸暮らしの中の木の工芸	木肌の特つ温かさや優しい感触を生かし、用途や機能と美しさなどを考え、木の生かし方や用具などを工夫して制作する。	○木の特つ温かさや木肌の美しさを味わう。 ○使いやすさと美しさを兼ね備えたデザインを構想する。 ○木の特性を理解して加工方法を適切に考えながら制作する。 評価の項目： 知 図 図 図 図 図
3	鑑賞 自然の美しさから生まれた	自然物を発想の源としてつくられたものや自然の造形を生かした建築の装飾の工夫や美しさを感じ取り、生活の中の美術の動きを理解する。	○自然の美しさを取り入れたデザインを鑑賞し、気付いたこと、感じたこと、考えたことなどを話し合う。 ○自然界の美しさを生かした造形が、身近な暮らしをどのよう彩っているかを探し、自然と共存してきた人類の美意識について考えて意見を述べ合う。 評価の項目： 知 図 図 図 図 図
	鑑賞 祭りを彩る造形	日本やアジアの祭りに見られる造形物の特徴やイメージの違いを感じ取るとともに、住んでいる地域の美術の伝統文化への関心を高める。	○日本各地域やアジアの国に伝わる祭りの造形物を鑑賞し、それぞれの特徴や違い、制作の意図と工夫、造形物に込められた人々の願いなどについて話し合う。 ○住んでいる地域の祭りの造形物や伝統装束などを調べ、評価の項目： 知 図 図 図 図 図

4 各観点ごとの評価方法について

- ア 「知識・技能」
 ・表現方法や用具用材への知識 (作品・テントより)
 ・作品や実技・表現」
 イ 「思考・判断・表現」
 ・授業中の想像力をかしたアイデアスケッチや発言
 ・作品の構想と色彩計画
 ・鑑賞作品
 ・実技にテントの表現技能
 ウ 「主体的に学習に取り組む態度」
 ・授業や作品に対する必要な資料の準備など
 ・授業道具や制作過程、鑑賞ワークシートへの記述、感想発表など
 ・作品鑑賞時の発言

5 おすすめの学習方法

- (1) 学習
 ア 授業で使用する道具は必ず準備しておきましょう。(美術バッグは学校保管できます)
 イ いろいろ使う分野の本や広告・新聞などから、アイデアの収集をしておきましょう。
 (2) 授業
 ア 休み時間中に準備をしておき、制作に集中しましょう。
 イ 制作手順や注意事項をよく聞き、本時の自己目標を立てて計画的に制作する。
 ウ 先生に見てもらいたいアドバイスをもらい、よりベストな作品をつくりましょう。
 (3) 復習
 ア 資料書や学習シートを活用して内容や制作手順を確認しましょう。
 イ 制作が遅れている場合は、昼休みを利用して進めて不安をなくしましょう。

6 心がけてやってみよう！ Q&A

Q: 絵が下手なんだけれど、どうすれば上手くなりますか
 A: 絵が下手な道具です。シャープペンを使う生徒が多いですが濃い鉛筆が最適です。次に自分の好きな模写したり、観察しながらの描きこみで描くのもいいでしょう。またスケッチして下書き込み完成させましょう。表現の幅が広がります。

「美しいものや自然に感動する心」を持ち、自分の発想を大切に制作することが大切です。作品を生み出す感動を味わってみましょう！

生徒の学習状況また社会状況により教材内容等が変更になる場合もあります。

2 年生 美術

- 1 教科の目標鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や表現及び鑑賞の幅広がらる資質・能力を育成する。
- 2 美術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成する。

2 評価の観点

- 「知識・技能」
 ・自己の表現活動に役立つ表現方法や用具や用材に関する知識、また鑑賞に必要な知識を身に着ける。
 「技法」
 ・表現の技能を身に付け、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。
 「思考・判断・表現」
 ・感性や想像力を考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。
 ・美しさな作品を鑑賞し、発見を基に自分なりの感じ方を深め考えを広げる。
 「主体的に学習に取り組む態度」
 ・主体的に表現の創造活動に取り組み、その喜びを味わおうとする。
 ・主体的に表現の創造活動に取り組む、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じとろうとする。

3 第2学年

月	教材名	学習のねらい	学習の内容と主な評価の規準
4	オリエンテーション鑑賞 多彩な表現眺むのはなぜだろう	○ゴッホの「星月夜」とモネの「印象一日の出」の原寸大の部分鑑賞し、表現の自由を実感する。	画家たちが描き表したかった生き生きとした心の叫びを実感を伴って感じ取り、それぞれの表現の違いを感じる。 評価の項目：鑑賞 鑑賞
5	絵画 空想は現実を超えて	空想や夢、心の中の世界などから主題を生み出し、形や色彩、描くものや配置などの効果を考え、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に絵で表現する。	○空想や心に広がる世界などを考えたり広げたりしながら主題を生み出構想を練る。 ○絵の具などの特性を生かし、意図に応じて創意工夫して表す。 ○自分や友達作品を鑑賞し、表現について考える。 評価の項目：鑑賞 鑑賞 図 図
7	鑑賞 なんでこれが美術なの？ “芸術はみんなのもの”	現代美術に関心を持ち、物と場所、大きさ、形や色彩、制作の様子などに着目し、イメージを捉えるなどしながら、作者の心情や表現意図、創造的な工夫などについて考えるなど見方や感じ方を深める。	○現代美術の多様な表現を鑑賞し、作者の心情や表現の意図、創造的な工夫などを考え、発表し合う。 ○発表意見や教師の解説、自分の考えから現代美術のよさや美しさ、面白さなどについてまとめる。 評価の項目：鑑賞 図 図 図
10	デザイン ジジジチカピカ ポツポツパツ	光や影の効果を生かしたデザインに関心を持ち、空間の美しさや使う場面などを鑑賞し、その効果や印象などについて感じたり話し合う。	○自然光や人工的につくり出す光、またそれらによる影の様子などを鑑賞し、その効果や印象などについて感じたり話し合う。 ○光がつくり出す空間の美しさや使う場面などを基に主題を生み出す。 評価の項目：鑑賞 鑑賞 図 図
11	鑑賞 暮らしやすさのデザイン	使う人の立場や気持ちを考えたデザインに関心を持つ。	○さまざまな立場の人が安全に暮らせるために工夫された製品などのデザインについて鑑賞し、特徴をまとめる。 評価の項目：鑑賞 図 図
12	デザイン ひと目で伝えるための工夫	ピクトグラムやデザインに関心を持ち、伝えたい内容やイメージ、伝える場面などを基に主題を生み出し、形や色彩などによる伝達の効果を考え、見通しを持ってデザインし表す。	○身の回りにあるサインやピクトグラムを調べ、伝えたい情報が多くの人に伝わるための工夫について考える。 ○校内や身近な場所に活用できるサインやマークを基に主題を生み出し、アイコンスケッチをする。 評価の項目：鑑賞 鑑賞 図 図
2	工芸 つくって使って味わう工芸	材料の特性や機能性を生かしてつくろすることに関心を持ち、材料のよさや美しさ、使う場面や機能などを基に主題を生み出し、材料や用具の特性	○身の回りにある手づくりによる製品を取り上げ鑑賞する。 ○材料の持ち味や、使う場面などから主題を生み出し、材料や用具の特性を生かしながら制作する。

鑑賞 浮世絵はすごい	を生かし、見通しを持ってデザイン し表す。 浮世絵のよさや特性などに関心を持 ち、構図や色彩、作風や印象などを 捉え、制作者たちの意図と創造的な 工夫、美術文化の継承と創造につい て考えるなどの見方や感じ方を深め る。	評価の項目： <u>鑑賞</u> <u>態度</u> <u>図</u> <u>図</u> <u>図</u> ○浮世絵作品を鑑賞し、気付いたこと、感じたこと、考え たことを話し合う。 ○出された意見を基に、構図や色彩、線、彫りや摺りの特 徴、作風や作品の印象などに着目しながら浮世絵の表現の よさや特性をまとめる。 ○制作者たちの意図と創造的な工夫について考え、美術文 化の継承と創造などについて考えたことをまとめ、発表し 合う。 評価の項目： <u>鑑賞</u> <u>図</u> <u>図</u> ○西洋の美術作品に影響を与えた日本美術作品のよさや美 しさはどのようなところにあったのか、作品の特徴や時代 背景なども視野に入れながら考え、意見を述べ合う。 ○シャボニスムの表現の特色や美しさ、作者の意図と創造 的な工夫、美術を通じた国際理解、美術文化の継承と創造 などについて考えたことをまとめ、発表し合う。
---------------	--	--

4 各観点ごとの評価方法について

- ア 「知識・技能」 図 図
 ・表現方法や用具・用材への知識（作品・テストより）
 ・作品や実技テストの表現技能
- イ 「思考・判断・表現」 図 図
 ・授業中の想像力や色彩考
 ・鑑賞作品への思考
 ・実技テストの表現技能
- ウ 「主体的に学習に取り組む態度」 態度 態度
 ・授業や作品に対する必要な資料の準備など
 ・授業道具や制作に必要な用具・道具の扱い方、完成作品など
 ・授業での制作過程、鑑賞ワークシートへの記述、感想発表など
 ・作品鑑賞時の発言

5 おすすめの学習方法

- (1) 予習
 ア 授業で使用する道具は必ず準備しておきましょう。
 イ いろいろな分野の本や広告・新聞などから、デザインの収集をしておきましょう。
- (2) 授業
 ア 休み時間中に準備をしておき、制作に集中しましょう。
 イ 制作手順や注意事項をよく聞き、本時の自己目標を立て計画的に制作する。
 ウ 先生に見てもらいたいアドバイスをもらい、よりベストな作品をつくりましょう。
- (3) 復習
 ア 資料書や学習シートを活用して内容や制作手順を確認しましょう。
 イ 制作が遅れている場合は、昼休みを利用して進めて不安をなくしましょう。

6 心がけてやってみよう！ Q&A

Q: 写生会や風景が苦手です。上手く描きたいのですが・・・
 A: まずは、描きたい主題を決めます。上手く描きたいのは構図です。上手な先輩の作品や友だちの作品を参考に技法をまねて描くのもいいでしょう。濃い鉛筆で薄く大失敗かき描くことと、パレットに全色だけ混ぜて、下絵は、まあ何色が混せてぬりましょう。描き続けよう。最後まで丁寧に描き続けよう。

「美しいものや自然に感動する心」を持ち、自分の発想を大切に制作することが大切です。
 作品を生み出す感動を味わってみましょう！

※生徒の学習状況により教材内容等が多少変更になる場合があります。

3 年 生 美 術

- 1 教科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成する。

2 評価の観点

- 「知識・技能」 表現活動に役立つ表現方法や用具や用材に関する知識、また鑑賞に必要な知識を身に付ける。
 「技法」 表現の技能を身に付け、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。
 「思考・判断・表現」 を働かせて感じ取ったことや考えたことなど基に、豊かに発想し、よさや美しさや想像力を考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。考えを広げる。
 「鑑賞」 様々な作品を鑑賞し、主体的に学習に取り組み、感性や想像力を働かせてよさや美しさを感じとろうとする。

3 第3学年

月	題 材 名	学習のねらい	学習の内容と主な評価の規準
4	オリエンテーション	・美術の授業に対する心構えや授業のルールを理解する ・「金剛力士像」をモチーフにした作品を通して、対象と人間の想像力との深い結びつきを理解する。 ・仏教と美術の深い繋がりを理解する。	「 態度 」 美術の意味を再確認させ、美術的な活動への興味・関心・意識を高める。 「 技法 」 伝統的な自然観について関心をもち、自然現象と人間の想像力との深い結びつきを感じる。 「 鑑賞 」 自然現象と人間の想像力とのお互いの深い結びつきを感じる。
5	鑑賞 ・願いや折りの形 (修学旅行)	・江戸時代に京都を中心とした美しさを知る。	「 態度 」 琳派を中心とする、日本の伝統的な造形表現に関心を持つことが出来る。 「 鑑賞 」 日本伝統的な造形表現のよさや美しさを理解し、味わうことが出来る。
6	鑑賞 「伝統の美に学ぶ」 絵や彫刻 「モノトーン の美しさ」	・伝統を生かして現代に伝わる味わい、墨で表現する面白さやよさを学ぶ。	「 態度 」 伝統的な水墨画のよさや美しさに関心を持つことが出来る。 「 技法 」 水墨画の特徴を生かした構想を練ることが出来る。 「 鑑賞 」 濃淡やにじみ、ぼかしなど、効果的な技法を工夫することが出来る。さ、独自の表現の工夫を感じ取ることが出来る。
7	風景画の 描き方 ・郷土を描く	・空間の奥行きや広がりや透視図法や空気遠近法などの様々な遠近法を学習する。	「 態度 」 遠近法について理解を深め関心を高めることができる。 「 技法 」 透視図法や遠近図法を使うことができる。
9	デザインや工芸 ・学校生活を豊かにするワーク	・生活空間に適したデザインを考え表現する。	「 態度 」 生活の中にあるワークやロゴデザインに関心をもつ。 「 技法 」 見る人にわかりやすく、生活が便利になるデザインを考案する。 「 鑑賞 」 デザインの性質を生かした効果的なデザインを工夫する。 「 鑑賞 」 生活の中にあるワークやロゴデザインのよさを味わうことができる。
	鑑賞 ルネッサンスの美術	・ルネッサンスの才能や人間性に触れ感動することができる。	「 態度 」 ルネッサンスの作家や作品に関心や好奇心を持つことができる。 「 鑑賞 」 作家の代表作品を鑑賞することで西洋

		美術をより深く理解し味わうことができる。
--	--	----------------------

1 0	デザインや工芸	・前をコツコツと彫り仕上げていく彫刻の楽しさ、彫刻部分の楽しさ等、存在感を味わう。	態表 準備や後片づけなどをはじめ、制作全体を通してスムーズに取り組むことができる。
1 1	篆刻 (卒業作)	・思い出を形に表し、作品をいつまでも大切に育てる。	発 感性や造形感覚、想像力などを働かせて豊かに発想することができる。
1 2	自分の印字を彫ろう		技 材料や用具の特性を理解し、立体で表す可能性や楽しさを味わいながら制作することができる。
1			鑑 作品のよさや美しさ、独自の表現の工夫を感じ取ることができる。
2	鑑賞「生きる」と美術	・美術の目的について考える	態鑑 私たちの生活に息づく美術に気づき、「表現する」ということに関心を持つことが出来る。
			鑑 表現することと生きることのつながりについて考えることが出来る。

4 各観点ごとの評価方法については

- ア 「知識・技能」**【技】**
- ・表現方法や用具用材への知識 (作品・テストより)
 - ・作品や実技やイラストの表現技能
- イ 「思考・判断・表現」**【発】****【鑑】**
- ・授業中の想像力をかしたアイデアスケッチや発言
 - ・作品の構想と色彩計画
 - ・鑑賞作品への思考
 - ・美技テストの表現技能
- ウ 「主体的に学習に取り組む態度」**【態表】****【態鑑】**
- ・授業や作品に対する取り組み、授業での態度。(学習プリントの記入・提出の状況)
 - ・授業道具や制作に必要な資料の準備いの方、完成作品など
 - ・授業での制作過程、鑑賞ワークショップの記述、感想発表など
 - ・作品鑑賞時の発言、

5 おすすめの学習方法

- (1) 予習
- ア 授業で使用する道具は必ず準備しておきましょう。アイデアの収集をしておきましょう。
- イ いろいろな分野の本や広告・新聞などから、アイデアの収集をしておきましょう。
- (2) 授業
- ア 休み時間中に準備をしておき、制作に集中しましょう。う。デザインの取集をしておきましょう。
- イ 制作手順や注意事項をよく聞き、本時の自己目標を立て画的に制作する。
- ウ 先生に見てもらいたいアドバイスをもらい、よりベストな作品をつくりましょう。
- (3) 復習
- ア 資料書や学習シートを活用して内容や制作手順を確認しましょう。みましょう。
- イ 制作が遅れている場合は、昼休みを利用して進めて不安をなくしましょう。

6 心がけてやってみよう！ Q&A

Q: なかなかアイデアが浮かばず作品が進まず困った。

A: 資料書を見たり、友だちの作品を参考にさせてもらい自分でも小さくてもよいから何でもスケッチしてみる。

下手と思わず消さないで必ず先生に見せアドバイスをもらう。アドバイスの中から、気に入っているものをさらに描き込み完成させていく。

色々な画像や情報を集めて真似ることから始めてみましょう。

「美しいものや自然に感動する心」を持ち、自分の発想を大切にし制作することが大切です。作品を生み出す感動を味わってみましょう！

生徒の学習状況により教材内容等が多少変更になる場合もあります。

第1学年 保健体育科シラバス

1. 体育科の目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。
- (2) 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。
- (3) 運動における競走や協同の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の景善を尽くして運動する態度を育てる。
- (4) 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 評価の観点と方法

		評価の観点												方法
主体的に学習に 取り組み態度		<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を守ることができる。 ・ 服装を整えることができる。 ・ 意欲的に取り組み、運動の特性を味わうことができる。 ・ 係活動に進んで取り組み、自他の安全に留意して活動することができる。 ・ 公正で協力的な態度で活動することができる。 												観察 学習ノート
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の能力を理解し、自己に応じた課題を設定することができる。 ・ 課題に応じた活動を選択したり工夫することができる ・ 学習資料や学習カードを効果的に活用することができる。 ・ 課題となる技能を身につけることができる。 ・ 各種の運動の技能や記録を向上することができる。 ・ 運動の特性や運動の仕方を理解することができる。 ・ 健康や安全に関する知識を理解することができる。 												観察 学習ノート 入キルテス下 記録会・発表会 定期テスト 学習ノート
思考・判断・表現 知識・技能														

3. 指導計画

	前期・後期	前期												後期																							
		4月		5月		6月		7月		8・9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月															
1年	週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
2年	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
3年	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休

各分野・領域配当時間一覧

No.	領域	第1学年			第2学年			第3学年			3年間の配当時間		
		内容の取扱い	時数	内容の取扱い	時数	内容の取扱い	時数	内容の取扱い	時数	時数	割合		
1	体づくり運動	体ほぐしの運動・体力を高める運動	9	体ほぐしの運動・体力を高める運動	9	体ほぐしの運動・体力を高める運動	9	18	36	11.8			
2	器械運動	マット運動・跳び箱運動	9	マット運動・跳び箱運動	9	マット運動・跳び箱運動	9	31	31	10.1			
3	陸上競技Ⅰ	短距離・リレー (ハードル)・(走り幅跳び) 隔年	9	短距離・リレー (ハードル)・(走り幅跳び) 隔年	9	短距離・リレー・ハードル ・走り幅跳び・走り高跳び から選択	14	31	31	10.1			
4	陸上競技Ⅱ	長距離走	9	長距離走	9	長距離走	9	27	27	8.8			
5	水泳	クロール・平泳ぎ	9	クロール・平泳ぎ・背泳ぎ	9	複数の泳法で泳ぐ	11	28	28	9.2			
6	ダンス	創作ダンス・フォークダンス	9	創作ダンス・リズムダンス	9	創作ダンス・リズムダンス	11	29	29	9.5			
7	球技Ⅰ	ソフトボール	9	ソフトボール	9	ソフトテニス・バレーボール	16	26	26	8.5			
8	球技Ⅱ	ソフトテニス・卓球・バドミントン 選択	9	ソフトテニス・卓球・バドミントン 選択	9	ハンドボール 選択	7	26	26	8.5			
9	球技Ⅲ	ハンドボール	9	ハンドボール	9	サッカー・バスケツト 選択	7	32	32	10.5			
10	武道	柔道	9	柔道	9	柔道	7	32	32	10.5			
11	体育理論	運動やスポーツの多様性	3	運動やスポーツの発達に与える効果と安全	3	運動やスポーツの発達に与える効果と安全	3	9	9	2.9			
12	保健	心身の機能の発達と心の健康	12	心身の機能の発達と心の健康	16	健康な生活と疾病の予防	20	48	48	100.0			

